

「松本サリン事件」作られた虚像

河野義行さん (松本サリン事件被害者)



大きな事件が起こり、
警察に容疑者扱いされた時。
マスコミは虚像を作り、
犯人として追い詰める。
市民からのバッシングも加わり、
孤独な闘いを強いられる。

参加費
無料

平成30年

12月1日(土)

午後2時～午後4時

会場 ソレイユプラザなごや 研修室

定員 抽選80名 事前申込制
(申込方法は裏面をご覧ください)

対象 市内在住・在勤・在学の方

申込期限 11月9日(金)まで

難聴者用磁気ループシステム対応

講師プロフィール

昭和25年愛知県生まれ。名城大学理工学部卒業。昭和51年長野県松本市に転居。

平成6年6月「松本サリン事件」に遭遇。自宅付近からサリンが発生していたことなどから、長野県警の家宅捜索を受け、マスコミからも容疑者扱いされる。翌年3月20日「地下鉄サリン事件」が発生。結果的にサリン事件への関与が否定された。その後、国家公安委員長、長野県警本部長、マスコミ各社が相次ぎ謝罪。

平成13年8月、犯罪被害者の支援機関として「特定非営利活動法人(NPO)リカバリー・サポート・センター」に参加、現在顧問。

平成14年7月から一期(3年間)長野県公安委員を務める。

「報道改革」、「犯罪被害者の支援」などを訴え全国で講演活動をしている。

著書に『「疑惑」は晴れようとも』文春文庫、『松本サリン事件』近代文芸社、『命ある限りー松本サリン事件を超えて』第三文明社、『足利事件・松本サリン事件』(菅家利和氏共著)TOブックス、『今を生きるしあわせ』鳳書院などがある。

申込方法は裏面をご覧ください